

vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

12

DECEMBER 2005

CONTENTS

庄司紗矢香ヴァイオリン・リサイタル	1,2
クリスマス・プレゼント・コンサート2005	2
アートタワーみとスターライトファンタジー 第10回クリスマス・コンサート	3
水戸の街に響け! 300人の《第九》	3
SELF PORTRAIT 佐藤篤	3
最近の公演から	4
プロムナードコンサートの小部屋	4
ネットマ&Petite 情報	5
インフォメーション	6



庄司紗矢香 (撮影・篠山紀信)

その瞳は音楽をまっすぐ見据え、その音楽は私たちの心をまっすぐ射抜く。

12 / 1(木) 庄司紗矢香ヴァイオリン・リサイタル

11月に行われた水戸室内管弦楽団第63回において、草原を疾駆する駿馬のようにさわやかに、コンサートホールATMをかけぬけていった榎本大進。その印象もさめやらぬうちに、またしても類まれなる若き俊オヴァイオリニストが登場します。彼女の名は庄司紗矢香。1983年生まれ、22歳の彼女は、小柄な身体からは考えられないほどのエネルギーと音楽への深い情熱を放射しながら、きょうも世界の聴衆を魅了しつづけています。

4歳のときにイタリアに渡った彼女は、シエナのキジアーナ音楽院で開かれるコンサートを聴いて、自分からヴァイオリンを弾きたいと言ったのだそうです。「与えられたもの」ではなく、「自らの意志で選びとったもの」としての音楽との出会い。この出会いは、今にいたるまで、庄司紗矢香の音楽の根幹をなしてきたものではないでしょうか。「選びとった音楽」は、10歳のときにはもう「一生をかけて学ぶもの」に姿を変えていたのです。それからの彼女の歩みは神速です。原田幸一郎、ウート・ウーギ、ザハール・ブロンという名教師に学び、16歳までにヴィエニアフスキ国際コンクール(17歳までの部門)、ヴィオッティ・ヴァルセリア国際コンクール、パガニーニ国際コンクール、という3つのコンクールを制覇。16歳でのパガニーニ国際コンクール優勝は、史上最年少と日本人初、という二重の栄誉につつまれました。そして、ズビン・メータ、コリン・デイヴィス、ロリン・マゼール、マリス・ヤンソンスら名だたる巨匠指揮者たちとの共演。さらに、ドイツ・グラモフォンからのCDデビュー…。このような輝かしい経歴は、「天才少女」的な華やきよりも、彼女が自ら「選びとった」音楽を愛し、あらゆる力をつくしてその本質へ近づこうと

するその必然の成果としてもたらされた、という印象があります。

そしてグラモフォンからの3枚目のCD、プロコフィエフの2枚のソナタ(UCCG1183)で、もはや「天才少女」といった呼称を完全に脱ぎ捨てた、庄司紗矢香の音楽の核がつかいに姿を表した、という気がします。プロコフィエフの音楽の中でもっとも苦悩に満ちた、深い影を落とす第1番と、明るい生命力の横溢を感じさせる第2番。対照的な2曲の性格を「描き分ける」のではなく、真実のふたつの側面としてとらえ、それぞれに妥協なく向かいあい、共感しつづこうという心が、一音一音にみなぎっているのです。音楽を愛することを4歳にして選び取った少女が、10数年の「模索」というにはあまりに実り多い時を経て、たどりついた場所。そこには超絶技巧とか天才といった飾り言葉がいっさい不要な、彼女の信じる「音楽」だけがあります。

そのような妥協なき姿勢は、彼女のレパートリー選択にも現れているといえるでしょう。自分の信じる音楽であれば、その作品の知名度などはさしたる意味をもたない、という意志がそこにはみなぎっています。20歳でプロコフィエフのソナタを録音というのもすごいですが、すでに2枚目のCD『ルーヴル・リサイタル』(UCCG1100)には、シマノフスキのヴァイオリン・ソナタという知られざる作品が含まれていました。また2003年の帰国時には、レーガールのヴァイオリン協奏曲というおそろべき難曲をとりあげ、大いに話題を呼んでいます。こうした選択が、単なる秘曲趣味ではないことは、興味をひかれたレーガールの音楽について知るために、カールスルーエのレーガール研究施設に出かけていって、頼み込んで自筆譜を見させてもらい研究し

たという、熱意あふれるエピソードからもうかがえます。

さらに、音楽を単に鳴り響く音の快樂にとどめず、その背景にある精神性をも読み解く努力を惜しまないところが彼女のすごさです。具体的には、文学への関心です。彼女の好きな作家は、まず『罪と罰』『悪霊』『カラマーゾフの兄弟』を書いた巨匠、ドストエフスキーです。これまでになされた様々な彼女へのインタビューを読むと、それに加えてソルジェニーツィン『イワン・デニソヴィチの一日』、モルガン『人間のしるし』、ヴォルコフ『シヨスタコーヴィチの証言』、さらにゴーゴリやマルケス、旧約聖書といった固有名詞がどんどん出てきます。プロコフィエフの世界はゴーゴリに通ずる、と言われてさっそくゴーゴリを読む。この姿勢が、彼女の音楽のたしかな手ごたえと説得力に寄与していることは、間違いありません。

水戸を含む今回の日本ツアーのプログラム曲目は、まずシューマンが晩年、精神に異常をきたす直前にありったけの靈感を焼きつけたソナタ第1番。ソ連の抑圧された社会を生きたシヨスタコーヴィチが晩年、荒涼とした心の凍原の中で一音一音しぼり出すように書いた尋常ならざる重みのソナタ。そして対照的に、まるで管弦楽曲のようにまばゆい色彩を放つR.シュトラウス若き日のソナタ。この重量級の3曲を、彼女は信頼するパートナー、イタマール・ゴランと奏でます。そのゆるぎない意志に満ちた音楽に、わたしたちの心はまっすぐに射抜かれることでしょう! チケット残りわずか(11/15現在) まだの方はお求めお早めにどうぞ! 次ページのディスク紹介もごらん下さい。 《矢澤》



イタマル・ゴラン

クリスマス・プレゼント・コンサート2004
より



【庄司紗矢香ディスコグラフィ(2005年11月現在)】

バガニニ・ヴァイオリン協奏曲 第1番ほか

共演:ズービン・メータ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団
(ドイツ・グラモフォン UCCG - 7049)2000年7月録音
*記念すべきデビュー盤は、メータ&イスラエル・フィルという豪華な共演を得てのバガニニ! カプリングはショーソン:詩曲、ワックスマン:カルメン幻想曲、ミルシテイン:バガニニアーナと難曲ぞろい。

ルーヴル・リサイタル

共演:イタマル・ゴラン(ピアノ)
(ドイツ・グラモフォン UCCG - 1100)2001年9月録音
* 第2弾は、パリ・ルーヴル美術館オーデトリウムでのライブ録音。今回のリサイタルでも共演するゴランと、ドヴォルジャーク、シマノフスキ、ブラームス、ラヴェルという意欲的なプログラムに挑んだ。

プロコフィエフ:ヴァイオリン・ソナタ第1番&第2番

共演:イタマル・ゴラン(ピアノ)
(ドイツ・グラモフォン UCCG - 1183)2003年12月録音

* ドイツ・グラモフォンによるプロコフィエフの2曲のソナタの録音は、クレメル&アルゲリッチ以来!DGの庄司紗矢香への期待がかがえるというもの。カプリングにショスタコーヴィチの前奏曲。今回のリサイタルのショスタコーヴィチへの布石か?

そして最新ニュース! 12月21日にメンデルスゾーン&チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲という黄金カプリングによるニュー・アルバム発売予定!共演はチョン・ミュンフン指揮フランス国立フィルハーモニー管弦楽団。2005年10月録音(ドイツ・グラモフォン UCCG - 1273)

聖夜に捧げる、温かな命の音楽

12 / 23(金・祝)クリスマス・プレゼント・コンサート2005

毎年、畑中良輔による企画でお届けしているクリスマス・コンサート。今年も、私たちの命をみつめるかのような、温かく、気高く、そして生きる勇氣を与えてくれる魂の音楽と、その音楽に身を捧げる演奏家たちによる演奏会です。恒例のプレゼント抽選会も実施しますので、どうぞお楽しみ!!

金子みすゞの世界

コンサートの幕開けは、金子みすゞの詩に、中田喜直が作曲した「ほしとたんぼぼ」を茨城の女声合唱の名門・野ばら会の演奏でお楽しみいただきます。日頃、金子みすゞの詩に共感を寄せている方もきっと沢山いらっしゃるのではないのでしょうか。金子みすゞは、明治36年(1903年)山口県に生まれ、大正末期より詩を発表し始め、西條八十には「若き童謡詩人の巨星」と賞賛された童謡詩人です。そうした創作面の成功とは裏腹に、私生活は不遇でした。遊郭通いの絶えない夫より、淋病を移され病臥に臥し、さらに童謡を書くことや投稿詩人の仲間との文通も夫により禁じられています。そして、結婚してから4年目に正式に離婚するのですが、夫が一人娘の親権を主張、娘を引き取りにくる日の前夜、みすゞはついに自害をしてしまいます。享年僅か26歳でした。没後、彼女の作品は散逸してしまうのですが、児童文学者の矢崎節夫の長年の努力により遺稿が発見され、1984年以降、全集や選集が次々と発刊され、みすゞの魂は今日に蘇ったのです。コンサートでは、中田喜直が付曲した全9曲の女声合唱作品が演奏されます。優しさに溢れた金子みすゞの世界をご堪能ください。(ちなみに「ほしとたんぼぼ 全14曲」と記載しましたが、同作品の中で中田喜直が女声合唱曲に編曲した全9曲の演奏に変更となりました。ご了承ください。)

奇跡のピアニスト 遠藤郁子

ピアニストの遠藤郁子さんのステージが実現し

ます。遠藤さんの奏するピアノは、多くの人に勇氣や生きる力を与えています。それは、遠藤さんご自身の生き方そのものに源泉があるのではないのでしょうか。45歳の時、遠藤さんは癌を患い、それが理由で、生活のすべてを捨て去ることを決意されたそうです。遠藤さんは次のように語っています。「落ちたらあがかず、腹を据えてどん底まで落ちてみる。そうしなければ、もう一度飛躍し、生きなおすために『蹴る底』にすらゆきつかない...まさにその『蹴るうとする刹那』である、自分のルーツがあたたかい金色のヴェールですっぱり自身の魂と肉体を包んでくれるのは。(中略)私は今も振り返ることはない。十五年前の、離婚と乳がんのどん底で生活の保障一切を失って以来、未だ生活保障の皆無のなか、あいかわず『本来無一物』を貫き、雲水のごとく生かされている。がんが再発すればそれはそれで諾としよう。ピアノの音は嘘がつかない。こんな日常がそのままストレートに私のピアノの音になる。だからどんな境遇にある人たちとも、ピアノの音を介して通じあえる。すべては『みこころのまま』である。(2004年8月24日付、東京新聞)」コンサートでは、遠藤さんが最も大切にしているショパン作品から3曲(ポロネーズ第6番 英雄、ノクターン 作品9の2、華麗なる円舞曲 作品34の2)が演奏されます。

わが国のチェロ演奏の草分け 青木十良

チェリストの青木十良さんも、水戸芸術館のステージに初登場となるゲストです。90歳を迎えてもなお、現役の演奏家として活動をされています。チェロの巨匠クレンゲルの弟子であるドイツ人が「坊や、やってみないか」と勧めてくれたのが、青木さんとチェロとの最初の出会いだそうです。戦時中は、軍国教育に反発して、旧制中学を退学、やがて、NHKの囑託演奏家としての仕事や民放ラジオの仕事などを行い、ベートーヴェンのチェロ・ソナタ 第1番など数多くの日本初演を手がけ

ました。青木さんは若手演奏家を取りまく、コンクール偏重の傾向に警鐘を鳴らし、音楽以外のたとえば文学などを通じての人間の内的世界への没入こそが、音楽のより深い理解へと導くと語っています。コンサートでは、チェロが優美な旋律を奏でる名曲3曲(チャイコフスキー:アンダンテ・カンタービレ、サン・サーンス:白鳥、エルガー:愛のあいさつ)が演奏されます。(本項は、2005年6月18日付、朝日新聞掲載記事を参考とさせていただきます。)

天性の声 中澤桂、そして茨城の名演奏家たち 豪華ゲストのもう一人は、ソプラノ歌手の中澤桂さんです。まさしく天賦の才という言葉がふさわしい澄んだ美声の持ち主で、水戸芸術館には昨年の「日本のうたセミナー」をはじめ、度々ご出演いただいている、わが国を代表する歌い手です。プログラムは、中澤さんがもっとも得意とする、深い情趣を湛えた日本歌曲のレパートリーから、山田耕筰、中田喜直、團伊玖磨作品が取り上げられます。さらに、グノーの名曲 アヴェ・マリア が聖夜に捧げられます。

また、水戸芸術館のクリスマス・コンサートは、水戸をはじめ茨城各地で活躍する、優れた演奏家たちが集う場でもあります。過去3度の名演で、いまやクリスマス・コンサートには欠かすことのできないのが、中村佳代さんによるメシアン の 幼子イエスに注ぐ20のまなざし の演奏です。演奏会の最後を飾るクリスマス・メドレーの大合唱に登場するのが、金子みすゞのステージにも出演する女声合唱団の野ばら会とカラコレス女声合唱団です。指揮は中澤敏子さん。伴奏は、中澤桂さんのステージでも共演する田中直子さんと小沼富美枝さんによる2台ピアノという豪華な編成でお贈りします。

《中村》



写真左から;
アートタワーみと
スターライトファンタジー、
水戸の街に響け!
300人の第九



写真右;佐藤篤

アートタワーみとスターライトファンタジー 12 / 3(土)第10回 クリスマス・コンサート [市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸の冬の風物としてすっかり定着したのが、水戸芸術館や水戸駅をライトアップする「アートタワーみとスターライトファンタジー」のイルミネーションです。早いもので、今年で10年目となりました。さて、こちらも恒例の水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」を今年も開催します。今回は18校、21団体、800人を超える子供たちが出演予定です。金管合奏や吹奏楽をはじめ、合唱、器楽合奏、ミュージックベルなどの演奏が行われます。どうぞ、コンサートホールで、子供たちの晴れの舞台を応援してください。《中村》

[参加校 I 午前の部]柳河小学校(器楽合奏)、石川中(ミュージックベル)、第二中(合唱)、第五中(木管合奏、金管合奏、打楽器合奏)、吉田小(金管合奏)、酒門小(金管合奏)、第二中(吹奏楽)、常澄中(吹奏楽)、双葉台小(金管合奏)、千波小(吹奏楽)、石川中(吹奏楽) [午後の部]千波中(ミュージックベル)、五軒小(合唱)、千波中(吹奏楽)、常磐小(吹奏楽)、双葉台中(吹奏楽)、五軒小(吹奏楽)、渡里小(金管合奏)、吉沢小(金管合奏)、堀原小(金管合奏)、第四中(吹奏楽)

歓喜に満ちた調べに ともに声を合わせよう 12 / 18(日)水戸の街に響け! 300人の《第九》

今年が5回目となる「水戸の街に響け! 300人の《第九》」は、今や、師走の水戸の風物詩となりつつあります。オーケストラはエレクトーン2台(小林由佳、蛭田優子)とピアノ2台(中村真由美、中村佳代)、ティンパニ(尾花章子)がつとめ、300人のコーラスとともに、今年も芸術館広場に《第九》(ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 作品125 より 第4楽章)が響きわたります。このような編成で、しかも屋外で《第九》を聴けるのは、日本でも唯一とされています。

コーラスは、一般公募による参加者と茨城県合唱連盟、水戸市合唱連盟の方々がつとめます。畑中良輔(総監督)、鈴木良朝(指揮)ほかの指導のもと、9月から7回の練習を積み重ねて本番にのぞみます。また、ソリストは、昨年に引き続き、茨城県出身で水戸芸術館主催「茨城の名手・名歌手たち」出身者である結城滋子(ソプラノ)、清水良一(バリトン)に、初出演となる山本彩子(アルト)、そして昨年艶やかな歌声を高らかに響かせた二期会の小貫岩夫(テノール)が加わり、ますますパワーアップした《第九》をお楽しみいただけるでしょう。

戦争や自然災害など、つらく悲しいニュースが後を絶たない昨今。平和で希望に満ちた新しい年を迎えられるよう、歓喜に満ちた調べを聴きに、そしてともに歌いに、是非、足をお運びください!

《馬場》

SELF

いまや円熟の境地に向かわんとするピアニスト・佐藤 篤が、古典派の名匠たちの傑作群に熱く迫ります。

12 / 10(土) 佐藤 篤 ピアノ・リサイタル

リサイタルに寄せて

佐藤 篤

2002年より全6回シリーズで企画いたしましたピアノリサイタルシリーズ「同世代を生きた作曲家達」その4回目を水戸芸術館コンサートホールATMで12月に行うにあたり、先ずこの企画の趣旨を述べさせていただきます。

そもそも私は1976年にイノホールで楽壇デビューリサイタルを行い、以後ショパンを主としたロマン派の作曲家の作品をレパートリーの中心として演奏活動を続けてまいりましたが、ある時期を

境に私自身、音楽大学ではなく一地方大学の教員養成学部で教鞭を取っているに過ぎないとしても、単なるピアニストではなく学生を教育するという責任ある立場からバロックより現代までの気が遠くなるような幅広いレパートリーを身に付けることの必然性を痛切に感じ、その趣旨に添った華麗なる変貌(?)を遂げるべく一見無謀とも思われかねないこの様な企画を打ち立てるに至ったわけで御座います。

その1回目は「バロックとロココの接点」と題してクーラン、ヘンデル、D.スカルラッティ、J.S.バッハの作品、2回目は「20世紀作曲事情 実験か創造か? その伝統破壊のウソほんとう」と題してイベール、ヒナステラ、プーランク、ダラピッコラ、プロコフィエフの作品、3回目は「ロシア・スペイン音楽紀行 母なる大地と灼熱の太陽」と題してチャイコフスキー、ラフマニノフ、アルベニス、グラナドス、ファリヤの作品を取り上げてまいりました。そして今回がその4回目、「18世紀ウィー

ンの夜空に光輝く二極の星」と題し、勿論最初はウィーン古典派の巨匠モーツァルトとベートーヴェンの作品を取り上げるつもりでおりましたが、熱烈なファンの方より「4~5分でもいいから是非ハイドンを1曲演奏してください」との一言で、二極が三極になってしまいました。何事においても意志薄弱で済みません。

それはさておき、私にはモーツァルトとベートーヴェンとはある意味で対照的に思えます。物事をパターン化して考えることは好きではありませんが、前者は装飾美を身上とした声楽人間、後者は構成美を身上とした器楽人間と例えることが出来るでしょうか。ならばハイドンは、と人に問われましたらおそらく「どこか近寄りたいたい彼らより親しみ易く、素朴で人懐っこい暖かさを感じます」と答えるでしょう。ともあれ、目下その準備に明け暮れる日々で御座います。これでおしまーい.....

最近の公演から OCTOBER



1



2



3



4



5

1. 山口泉恵ピアノ・リサイタル
2-3. 茨城の名手・名歌手たち 第16回
4-5. マティアス・ゲルネ パリトン・リサイタル

山口泉恵 ピアノ・リサイタル(10月2日)
石岡市在住のピアニスト、山口泉恵さんは、芸術館開館記念の「茨城の名手・名歌手たち 第1回」の出演者。また、昨年の「クリスマス・プレゼント・コンサート2004」では、日本の民謡をピアノ・ソロで楽しく聴かせてくれました。そんな山口さんの初の芸術館でのリサイタルは、『ロマン主義 1810年に生まれた二人の天才の愛・人生・音楽』と題した、ショパンとシューマンの作品によるコンサート。真っ赤な衣装で堂々とステージへ向かった山口さんは、力強くそして美しく音楽を奏で、この二人の作曲家への愛で会場を包み込みました。アンコールは、ショパン:幻想即興曲 嬰八短調 作品66とシューマン:トロイメライ。《馬場》

アンケートから ショパンの情熱が心に力強く伝わってくる熱演でした。ホールの音響も良く、まろやかで、特に低音(左手)が素晴らしかったです。後半はシューマンの世界がホールいっぱい広がりました。アンコール曲はブラボー!でした。(いわき市:Y.K.さん) 音の美しさ、豊かさにおどろきました。すばらしい演奏でした。再演を是非にと思います。(無記名の方) 力強い演奏で、且つ情緒があつてとても良かった。(日立市:K.T.さん) すばらしい演奏有難うございました。これからの私の励みとなり、うれしゅうございました。(水戸市:I.T.さん)

茨城の名手・名歌手たち 第16回(10月8日)
5月28日に開催された出演者オーディションにより、61組という多数の応募者の中から選ばれた8人の名手・名歌手たちがステージに登場しました。司会は、オーディションの審査委員長を務めた畑中良輔氏。出演者の皆さんは、オーディションから4ヶ月を経て、更に成長した様子を見せ、それぞれに充実した演奏を繰り広げました。J.S.バッハのオーボエ・ソナタからバーンスタインのミュージカル、マリンバの超絶技巧作品まで並んだ多彩なプログラムも大変好評でしたが、それらは出演者それぞれの光り輝く今を映し出していたものとも言えるでしょう。彼らが今後さらに成長し、素晴らしい音楽家となってまた水戸芸術館に戻ってきてくれますように、私たちも応援して行きたいと思います。《関根》
アンケートから 皆さんとてもキレイでした。また演奏

会があれば来たいです。(無記名の方) 初々しく、一生懸命でよかったです。それぞれの実力もすごいですね。(北茨城市:Sさん) 皆様、緊張感があつてすばらしかった。同年代のプレイヤーなので、自分のことのように見ていましたが、あれだけ演奏できてすごと思う。(無記名の方) どの方も大変良かったです。私も音楽の道を志すものとして、更に精進しようと思いました。(ひたちなか市:N.O.さん) 会場も良く、自然体で聴けたので、とても良かったと思います。(東茨城郡:Y.F.さん) 一人一人が懸命に練習してきた様子がうかがえ、ハツラツと清新なイメージが良かった。(日立市:Mさん)

マティアス・ゲルネ パリトン・リサイタル
(10月16日)

ディートリヒ・フィッシャー=ディエスカウの後継者として頭角を現し、ヨーロッパではすでにドイツ歌曲の若き巨匠として評価されているマティアス・ゲルネが、水戸芸術館に登場した。ピアノ伴奏は、ドリス・ゾツフェルやベーター・シュライアーとの共演で知られるアレクサンダー・シュマルツ、オール・シューマン・プログラムで、詩人の恋、リーダークライス(作品24)をメインに、ハインリヒ・ハイネの詩による、「歌の年」1840年に書かれた歌曲ばかりが歌われた。ゲルネは、その包み込むような柔らかな声でシューマンの歌曲のロマン性、幻想性を歌い上げ、さらに低く突き刺すような声や半ば語るような表現も駆使して、ヴォルフにもつながるドラマ性や諧謔性がシューマンの歌曲にも多分に潜んでいることを明らかにした。アンコール曲は、シューマン きみは花のよう と ベートーヴェン 希望に寄す の2曲。《関根》
アンケートから とても明確で、しっかりした力強い演奏でした。ドイツ歌曲の「真髓」を表現したな、と思う(いわき市:A.N.さん) 感激のあまり涙が止まりませんでした!私の心に一生残るコンサートの一つにあげられます。最高でした!!(無記名の方) ゲルネさんの声に聞き惚れました。表現力が豊かで、感動しっぱなしでした。(大洗町:M.K.さん) 上質のベルベットに包まれているような錯覚を起こした。それほど美しく、心地よかったです。(調布市:I.S.さん)

プロムナード・コンサートの小部屋

12/4(日)13:30~ グレゴリー・ダゴスティーノ特別演奏会

週末の午後に、気軽にお楽しみいただいている「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」の特別演奏会を開催します。出演は、アメリカ人オルガニストのグレゴリー・ダゴスティーノ。ジュリアード音楽院の客員講師などを務める一方、全米各地、ドイツ、フランス、イギリス、ロシア、チェコ共和国などのフェスティバルやコンサートに招待され、演奏活動を行っているオルガニストです。今回は、バッハ、ヘンデルの古典作品からフォーレ、リストなどのロマン派、現在オルガニストとしても活躍しているボヴェの作品まで、多彩なレパートリーを誇るダゴスティーノによるオルガンの魅力を汲み尽くした演奏をご堪能ください。ハチャトゥリヤンの 剣の舞 まで登場するノリノリのコンサートです。いつもより長いおよそ1時間の演奏会です。「プロムナード・コンサート」ですから、もちろん入場は無料です。どうぞ足をお運びください。

12/25(日)12:00~ / 13:00~ クリスマス・スペシャル

クリスマスの日には合唱とオルガンの伴奏で、クリスマスのための音楽をお楽しみください。オルガン演奏は、毎月開催している「幼児のためのオルガン見学会」で子供たちのハートを魅了し、「オルガン名曲ライブラリー」などで、心温まる彼女ならではの演奏を披露してくれている浅井美紀。合唱は女声合唱の名門で、純な心で清楚な歌声を聴かせてくれる県立水戸第二高等学校コーラス部です。大切な人と一緒に、クリスマスの午後のひと時をお過ごしください。

《中村》



* nettama=ネットワークする猫
タマ。芸術館のコンサートをサカ
ナにいろんなどころへnettama
します。

ある伝記 あらためてショスタコーヴィチ

このところ、水戸室内管弦楽団第63回で《弦楽器と木管楽器のための交響曲 ヘ長調 作品73a》、庄司紗矢香ヴァイオリン・リサイタルで《ヴァイオリン・ソナタ 作品134》と、ショスタコーヴィチ作品の水戸芸術館での演奏が相次いでいる。僕もせっかくの機会なのであらためていろいろ聴いているのだけれど、やっぱりいいなあ。いや「いいなあ」なんてのんきな言い方は正しくない。「切実にすばらしい」こう書いてもまだ足りないくらいだ。

なににな、過ぎ去った20世紀の、ソヴィエト連邦という今はなき、独特の社会体制を持った国家を生き、作曲家の音楽の、どこが「切実」なんだ、って？ そう言われればそうなんだけど…。僕は、読んだばかりの伝記に、すこし影響されすぎているのかな。その伝記の名は『ショスタコーヴィチ ある生涯』という。著者はローレル・E ファーイという人で、日本語訳は藤岡啓介さんと佐々木千恵さんのおふたり。アルファベータという出版社から発行されている。

その前に、ショスタコーヴィチという作曲家の評価の変遷についてあらためて記しておこう。1970年代までショスタコーヴィチへの(少なくとも)公式の評価は、ソ連が掲げる「社会主義リアリズム」の綱領を代表する作曲家、というものだった。子供のころ音楽室の壁に貼られていた「作曲家年表」に載っていた「ショスタコピッチ」の代表作は、社会主義リアリズムの理念に則った交響曲第5番 革命 とオラトリオ 森の詩 であり決して ムツェンスク郡のマクベス夫人 や交響曲第14番 死者の歌 ではなかった。

その評価を覆してしまうのが、1979年に出版されたソロモン・ヴォルコフ編による『ショスタコーヴィチの証言』という本だ(中公文庫で今も入手できる)。この本でヴォルコフが作曲家から聞いたという「証言」は、衝撃的なものだった。彼が生きたソ連社会、なかんずくスターリンによって行われた思想や芸術の統制こそが「社会主義リアリズム」の正体だと告発され、その不当な抑圧に対する怒りと怨嗟の念が延々とつづられていたのだ。特にショッキングだったのは、交響曲第5番 のあの歓喜に満ちたクライマックスが「強制された歓喜の表現」であり、初演者ムラヴィンスキー(ショスタコーヴィチの交響曲を何曲も初演し、作曲者の最大の理解者と思われていた)の演奏はまるでわかっていない、という内容の告白

だった。まだ子供だった僕は、好きだった 交響曲第5番 やさらに途方もなく感動した交響曲第7番 レニングラード のあの轟音のクライマックスが「仮面」だったのか、とえらく落胆し、ムラヴィンスキーの演奏をろくに聴きもしないで嫌いになったものだ(ムラヴィンスキーさんごめん下さい)。この『証言』はずいぶん話題になり、西側でのショスタコーヴィチの評価は「社会主義リアリズムの代表」から「ソ連社会の悲劇の犠牲者」に180度転換、それぞれの作品がどれもソ連社会への批判のメッセージを隠し持っているかのように深読みされた。

しかし時は流れ、ソ連も崩壊した今、この『証言』については再検討がなされ、現在では「偽書」という見方がかなり強くなっているようだ。発表された当時間が冷戦まさかりだったこともありこの『証言』が政治的に利用されたことも否定できない。

ファーイの『ある生涯』は「東西対立」や「冷戦」という言葉がとりあえず歴史のこまに落ちていた時代(戦争や抑圧がなくなったわけではちっともないけれど!)に現れた伝記として、一方に偏った見方を極力排したバランスのとれた内容になっていると思った。資料や証言もものすごくたくさん駆使されていて(註記だけで57ページにおよぶ)作曲家の人生とそれを取り巻く社会が生きて生きて浮かび上がる。

読み終えて感じたのは、やはり『証言』で描かれた社会そのものは、それが偽書であるかどうかは別として、現実にあったのだな、ということ。ショスタコーヴィチが生涯において出会ったもっとも大きな危機は、1937年の ムツェンスク郡のマクベス夫人 批判、48年のジダーノフ批判のふたつだろうけれど、このできごとを通じ、野心に満ちたアヴァンギャルドな作曲家が、無理やり社会主義の理念を表現する「明るく健康的な」音楽を書くことを強要される過程が、残酷なまでに冷徹に浮かび上がってくる。

だが、それ以上に、僕はこの本を通じ「人間ショスタコーヴィチ」の姿がこれまでになくなりリアルに感じられ、そこに深く感動した。彼は自分が受けた批判にとまどい、うろたえ、苦しみ、結局は権力者に屈服することに何度も甘んじる。「反乱しろよ! 亡命しろよ!」と言いたくなる。それができなかった彼の「弱さ」がここにある、と冷たく言い放つこともできるだろう。けれども僕はそうは思わない。家族や友人たちへの愛もあつたし、自分が生まれた地への愛もあ

つたろう。彼はそこで生きること、愛する人々をまもること、作曲家としての魂の自由を貫くことを両立させようとする、おそろしい困難に挑んだのだ。それもひとつの、勇気ある選択だと思う。そして彼は音楽の中で、恭順の仮面の下に強烈な毒をひそませ、いつか読みとられるべきメッセージをそこに託した。さらに単なる皮肉だけではなく、そこにはもうほんとうにぎりぎりの場所での人間への希望が歌われているのだ。第5番 の終楽章に感動した心に嘘はないし、レニングラード の、晩年のバーンスタインがシカゴ交響楽団を振ったライブなんて、政治的、是非なんてどうでもいい、硝煙と砲火の中から立ち上るヒューマニズムの叫びが聴こえるじゃないか。それに、この本にはいろいろな写真が載っているのだけれど、娘と、いっしょに農場で豚と戯れ、大好きなサッカーを観戦しているときの彼の顔は、もう本当に無邪気な喜びにあふれている。こういう感情だって、彼の音楽からは聴こえてはこないだろうか。弦楽四重奏曲第1番(MCOが合奏版 アイネ・クライネ・シンフォニー を演奏した)とか、同第4番 同第6番 とか、あるいは議論を呼んだ 交響曲第9番 からさえも。なにかの主張のために殉じた音楽、ではなく、それを超えた地点から放たれるものとして、彼の音楽に耳をすますときが来ているのではないだろうか。

いま、晩年の ヴァイオリン・ソナタ を聴いている。今度、庄司紗矢香さんのリサイタルで演奏される曲だ。この頃のショスタコーヴィチは、公的には栄誉に包まれ、ソ連を代表する作曲家として政府から「お墨付き」の存在になっていた。だがこの暗さはなんだろう。雪に覆われたロシアの森を、真夜中にたった一人で歩いているような曲だ。聞こえるものといえば、雪を踏みしめる自らの重い足音と、息づかいだけ。黒々とした樹々の間から、かすかに乳白色の光がもれてくる。それは冷えきった月の光なのか、それともずっと先の、しかしいつかは確実に訪れる朝を予告する、陽光の最初の一閃なのか? それをたしかめたくて、僕はもう一度この曲を聴く。



プチ情報 速 達

ATMアンサンブル碧南スペシャル公演!

ATMアンサンブルの第21回定期演奏会は、来年4月、大物ゲストを迎えるの企画が着々と進んでおります。それに先立ち、ATMアンサンブルを毎年呼んでいただいている愛知県碧南市の碧南市芸術文化ホールで、12月に第12回演奏会を行います。いつもATMを歓迎してくれる碧南のお客様への感謝の念をこめての、リクエストによるプログラム。曲目は、ドビュッシー: チェロ・ソナタ (チェロ:上

村 昇)、フランク: ヴァイオリン・ソナタ イ長調 (ヴァイオリン:小林美恵)、ドヴォルジャーク: ピアノ五重奏曲 イ長調 作品81 (ヴァイオリン:加藤知子、小林美恵、ヴィオラ:原田幸一郎、チェロ:上村 昇)。ゲストとしてピアノに、昨年リヒテル国際ピアノ・コンクールで2位を受賞し、注目を集める気鋭のピアニスト、上野 真を迎えます。12月21日(木)19:00開演、お問い合わせは碧南市芸術文化ホール(TEL0566-48-3731)まで。

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM 水戸「芸術ももやま話」金曜日 18:15頃 ~ 15分ほど。水戸周辺 83.2MHz、日立周辺 84.2MHz。

チケット・インフォメーション 12月4日(日)発売分

オペラの花束をあなたへ - 17 佐藤美枝子の「幻想のルチア」
2 / 3(金)18:30開演 料金(全席指定):¥4,000
現代音楽を楽しもう - 19 パーカッション・ミュージアム
2 / 11(土・祝)14:00開演
料金(全席指定):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,000
ちょっとお昼にクラシック5
2 / 14(火)13:30開演 料金(全席自由):¥1,200(ドリンク付)
この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)。
合唱セミナー2006 3 / 5(日)10:00開始
参加費(楽譜代込み):一般¥2,000 高校生¥1,500
中学生以下¥1,300
兼氏規雄 クラリネット 室内楽演奏会
3 / 11(土)18:30開演 料金(全席自由):¥2,500
びわ湖ホール声楽アンサンブル 3 / 12(日)14:00開演
料金(全席指定)一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,000

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央
ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

庄司紗矢香 ヴァイオリン・リサイタル
12 / 1(木) ...中央 x、左右・裏
佐藤篤 ピアノ・リサイタル 12 / 10(土) ...自由席
クリスマス・プレゼント・コンサート2005
12 / 23(金・祝) ...中央 x、左右・裏
ニュー・イヤー・コンサート2006 1 / 5(木) ...完売
茂木立真紀 ヴァイオリン・リサイタル 1 / 21(土) ...自由席
白相まどか 大内田奈名子 城戸春子 トリオコンサート
2 / 19(日) ...自由席

11 / 13(日)現在の状況です。
公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンタ
ンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証
(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演も
ございますので、予めお問い合わせ下さい。
固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な12月のスケジュール

コンサートホールATM

庄司紗矢香 ヴァイオリン・リサイタル 12 / 1(木)19:00開演
料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000
アートタワーみとスターライトファンタジー 第10回 クリスマス・コンサート
12 / 3(土)午前の部]10:00開演 [午後の部]14:00開演 入場無料
佐藤篤 ピアノ・リサイタル 12 / 10(土)16:00開演
料金(全席自由):¥4,000
水戸の街に響け! 300人の《第九》
12 / 18(日)12:00開演 / 13:30開演(2回公演) 入場無料
会場:広場(悪天候の場合、コンサートホールATM)
クリスマス・プレゼント・コンサート2005 12 / 23(金・祝)17:00開演
料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000
アートタワーみとスターライトファンタジー10周年記念事業
中村紘子 ピアノ・リサイタル
12 / 24(土)17:30開演

料金(全席指定):¥5,000

エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート 12 / 11(日)12:00 / 13:30
入場無料 演奏は各回20分程度です。
グレゴリー・ダゴステイノ特別演奏会 12 / 4(日)13:30開演
クリスマス・スペシャル 12 / 25(日)12:00 / 13:30
合唱指揮:齋藤由美子 合唱:県立水戸第二高等学校コーラス部
オルガン:浅井美紀
入場無料

ACM劇場

子供たちのクリスマス
聖母幼稚園 12 / 8(木)午前の部]9:45開演 [午後の部]13:45開演
五軒・柳河・上大野・下大野幼稚園 12 / 14(水)9:50開演
愛恩幼稚園 12 / 20(火)10:30開演
入場無料

現代美術センター

「X-COLOR / グラフィティ in Japan」
10 / 1(土)~12 / 4(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)
「われらの時代」
12 / 17(土)~2 / 5(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日 年末年始12 / 26(月)~1 / 3(火)
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600
中学生以下・65歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

茨城の主な12月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020
TCM ピアノ・トリオ・コンサート 弘中孝(p) 久保陽子(vn) 堀了介(vc)
12 / 10(土)18:00開演
常陽藝文センター TEL / 029(231)6611
後藤晴美 フルーツリサイタル 冬の音楽会 12 / 3(土)15:00開演
茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166
チェコ・フィル合奏団 クリスマス・コンサート 12 / 23(金)15:00開演
水戸市民会館 TEL / 029(224)7521
コンセル・ムジカ第26回演奏会
安蔵博 バリトンリサイタル~フランス歌曲を中心に~ 12 / 4(日)13:30開演
新ピアニスト協会 ピアノコンサート「幻想曲」 12 / 15(木)18:00開演
茨城大学管弦楽団 第31回定期演奏会 12 / 17(土)14:00開演
水戸市民吹奏楽団 第28回定期演奏会 12 / 18(日)14:00開演
シャントウール・ド・ミトコンサートVIII Xマスコンサート 12 / 24(土)16:00開演
ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122
水現21第8回演奏会 12 / 9(金)19:00開演
(問)水現21実行委員会 横川 TEL / 029(251)2904
日シビックセンター TEL / 0294(24)7711
VIVA!!ピアノデュオコンサート 野平一郎&藤井一興 12 / 11(日)15:00開演
日立市民会館 TEL / 0294(22)6481
日立市民吹奏楽団 ポップスコンサート2005 12 / 18(日)14:00開演
常陸太田市民交流センター・パルティホール TEL / 0294(73)1234
川島成道コンサート2005 12 / 3(土)16:00開演
常陸大宮市文化センター・ロゼホール TEL / 0295(53)7200
茅根順子リサイタルIV 日本歌曲の夕べ 12 / 10(土)18:30開演
ロゼ・クリスマスコンサート 千住真理子・上村昇・藤井一興トリオ
12 / 23(金)16:00開演
ギター文化館 TEL / 0299(46)2457
北口功 ギターリサイタル 12 / 11(日)15:00開演
ノバホール TEL / 029(852)5881
ピエール=ロラン・エマール ピアノリサイタル 12 / 4(日)15:00開演
吉野直子&マリー=ピエール・ラングラメ ハープ演奏会
12 / 10(土)14:00開演
サントベテルブルク交響楽団演奏会 指揮:アレクサンドル・ドモトリエフ
12 / 18(日)15:00開演
鹿嶋勤労文化会館 TEL / 0299(83)5911
ヤノシュ・オレイニチャク ピアノ・リサイタル 12 / 2(金)18:30開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2005年12月発行 第112号
編集・発行 / 水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃
馬場千恵 矢澤孝樹(編集長)
DTP / office west
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...
新年への希望を星たちにこめて...